

---

# おひさま

まなみ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

おひさま

### 【Nコード】

N5876Z

### 【作者名】

まなみ

### 【あらすじ】

平凡な中学生、島崎桃代。いつもの仲間とは、ずっと一緒だと思っていた。

中学三年生。

それぞれの道が、別れはじめる。

ほのぼの青春ストーリー。

## はじまり

テレビから、天気予報の威勢のいいおねーさんの声が聞こえる。今日の天気は快晴だそうだ。カーテンの隙間から入ってくる太陽の光。予報は外れることはないだろう。

朝食のパンを食べたあとは、眠たい目をこすって、洗顔歯磨き。トイレに行ったあとはパジャマを脱いで、制服に着替える。今日はうつすらと化粧もしてみた。髪型はアップのおだんごにする。なんだ、結構似合うじゃんあたし。あ、携帯が震える。菜花からだ。

『今日は学校間に合う！お迎えよろ（はあと）』・・・了解。すぐに返信をうつ。あたしはお気に入りのリュックを背負って、靴を履いた。今日は菜花を迎えにいかなきゃいけない。余裕をもって行かないと。玄関の扉を開けた。まっ青な、朝の空が広がっていた。

・・・あまりにも平凡な、あたしの日常。

## 幼なじみ

あたしの家を出てから五分歩くと、古いアパートがある。二階の一番端の部屋を見つめながら、電話をかける。ワンコールで、慌てた声が聞こえた。

『桃？もう出るから！』

あたしが喋る暇なく電話を切られた。それと同時に、私が見つめていた部屋から一人の女が出てくる。幼なじみの菜花だ。

「桃おはよお〜」

「おはよ、菜花。あと十分で始業だよ」

「そのままにコンビニ寄る！朝飯まだなの」  
菜花は手鏡を見て、髪を整えながらさういう。あたしは菜花のいうとおり、学校から一番近くのコンビニに寄ってあげた。菜花はパン二つと紙パックの野菜ジュースを買う。あたしはミルクティーを買った。

コンビニを出て、さっそく菜花は食べ始める。あたしも飲もうと、ストローを差した。そのとき、自転車が来てあたしと菜花の目の前で止まった。

「あ、翔ちゃん！」

菜花が嬉しそうな声をあげる。あたしもその顔は嫌というほど毎日見ている。

「よう、桃代、菜花」

幼なじみ二人目、翔。

「翔ちゃん、遅いよ。あと五分で遅刻だよ！」

「うっせえ、わかってるっつもの。あ、じゃあ菜花、そのパン一つくれ」

「いーいーよ。チョコクロ？レーズン？」

「チョコ」

翔は素晴らしい菜花からチョコクロワッサンを奪う。翔はあたしからもミルクティーを奪って飲んだ。

「ちよつと、あたしまだ飲んでないんだけど？」

「いいじゃん別に。今度なんか奢るから」

翔はそれだけいい、何でもないふうに、あたしにミルクティーを返した。

・・・全然良くないよ。あたしは翔が一度くわえたストローを見つめる。なんか変態ぽいけど。それよりこれって、間接チューじゃん。まあ、翔は別になんとも思わないんだろうけど・・・。

「翔ちゃん！パンとティーあげたんだからチャリ乗せて」

「三人乗り？無理、無理」

「あんたが歩けばいいんじゃない」

「おい桃代ふざけんな！」

結局、三人乗りの方法をいくつか試しているうちに始業のチャイムが鳴った。遠くから聞こえた。バカみたい。でもそのバカみたいな日々が、あたしには楽しくて仕方がない。

「えーつと、欠席は・・・片岡翔・・・佐々木菜花・・・島崎桃代  
|・・・」

「はいはいはいはい！片岡いますよ、います！」

「なのかも桃もいまーす！」

「アウトに決まってるだろ」

教室に入ると、出欠がすでに取られていた。ああ、また遅刻になっちゃった。菜花を迎えに行くといつもこうなる。

「お前らな、三年になってもう二週間だぞ？受験のことも考えねえといけねえんだから、けじめはつける」

担任にそう言われる。菜花も翔もへそを曲げた。あたしもうんざり。中学三年生に進級してはや二週間。それから耳にタコができるほど、『受験』だの『進路』だの『高校』だの。覚悟はそれなりにしていたけど、そればかり言われると、生徒は鬱になってしまふ。あたしと翔と菜花は席に着いた。席も近くだ。

「こないだ配った進路希望調査票、提出今日までだぞー。未提出のやつは放課後でもいつでも持ってくるように！」  
担任はそれだけいい、教室を出た。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5876z/>

---

おひさま

2011年12月19日22時50分発行